

指定校番号	28009	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島東小学校	校長	山崎 聡	生徒指導主事	見渡 英治
-----	------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい『キーワード 集団の中の一員としての意識』

- ・ 異学年交流での出会いを通して、人とつながる力を育む。
- ・ 集団の一員として活動することの楽しさを味わう。
- ・ リーダーとしての自覚を持たせ、活躍の場とする。

取組の具体的内容『キーワード 異学年交流で』

- ・ 4月 1年生を迎える会……………1年間、さまざまな活動を共にしていく1年生と6年生のペアを作る。6年生には学校の中のリーダーとしての責任感をもたせ、1年生には6年生と過ごすことで小学校での生活に慣れるための安心感をもたせる。



- ・ 6月 たてわり班顔合わせ会…1年間、さまざまな活動を共にする1年生から6年生で形成する班を作る。自己紹介と簡単なゲーム、たてわり班の旗の作成を行う。



- ・ 7月 おりづる集会……………碑前祭に供える千羽鶴をたてわり班で集まって折る。自分だけで折るのではなく、折り方を上学年が下学年を教えるなど、班という集団を意識して活動する。



- ・ 12月 校内ウォークラリー…たてわり班で協力し、ゲームをしたり課題を解決したりしながら、異学年での交流をする。リーダーである6年生を中心に回るコースを班員の意見を取り入れながら決めたり、みんなが楽しめるという目標が達成できるように班をまとめたりしながら活動する。



- 3月 6年生を送る会………1年間、リーダーとして班をまとめてくれた6年生に感謝の気持ちを込めて卒業を祝う。1年生から5年生は会場の飾りつけや準備をしたり、自分の班の6年生にプレゼントを作ったりする。

- 6月から3月まで………1年間を通じて縄跳び運動や東っこ体操などの業前運動や昔遊びや転がしドッジボールなどのグループ遊びなどをたてわり班で行う。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 機会の保障と安心感』

- 限られた授業時数の中から児童の活動時間を確保することの難しさは感じるが、たてわり班を使った活動を取り入れることにより得られる成果をより効果的にするためには、たてわり班と一緒に活動する機会の保障が不可欠となると考えた。そこで児童会活動を計画する生活部だけではなく、遠足や業前運動を計画する保体部など各校務部で計画する行事に意識的にたてわり班を活用するようにしてきた。その結果、たてわり班の児童が顔を合わせることが多くなり親近感を感じられるようになった。また様々な活動に協力して取り組ませることで連帯感が生まれた。
- リーダーシップを発揮しやすいように、各行事の前に6年生児童にオリエンテーションを行った。きちんと見通しをもたせることで6年生児童も安心感をもち、自信をもって下学年に接することができるようにさせた。行事が終わるごとに振り返りをさせ、見つけた改善すべき点を次回の活動に生かすことができるようにした。
- 異年齢、異性で構成するグループで活動することによって多様な考え方にふれさせることができるようにすることをねらって、たてわり班を組む時には、どの班も男女の比をできるだけ均等となるように組むようにした。
- 班をまとめることを大きな負担と感じてしまいやすい6年生児童には、いつも複数で対応できるように6年生が二人いる班に編成するなど、児童の実態に即した配慮を心がけた。また、配慮を要する児童については、担当になった教員が適切に対応できるよう事前に職員間で情報を共有し合った。

取組の成果（効果） 『キーワード 学年を越えたつながり』

- 1年間を通じて様々な活動を共に行ってきたことで、学年を越えて良好な人間関係を築こうとする意識はどの学年でも高まった。特に6年生はリーダーとしての自覚をもち、自分のことだけではなく、グループ全体のことを考えて声かけをしたり、行動したりすることができるようになってきた。また5年生は、来年度、自分たちがリーダーとなった時に、担う役割やグループをまとめる方法を6年生の姿を見ることで学び、明確にイメージすることができた。その経験を生かして年度終わりの活動では6年生と協力して班をまとめる姿も多く見られた。たてわり班活動を行っていない時でも、校内で出会えば声をかけたり、自ら率先して遊びに誘ったり、困っていたら助けたりということができるようになってきている。自分のことだけではなく、周りに意識を向けることができる児童が増えてきたように感じる。

- ・ たてわり班活動を行うことは児童だけではなく、教職員も多くの児童とかがかわることができる良い機会となった。学校全体ですべての児童を育てていこうという教職員の意識も大きく高まることにつながったと感じる。

【たてわり班活動についての児童の感想】

- あまり話したことの無い人と話すことができ楽しかった。
- 上手くいかなかった時に班の人がなぐさめてくれた。
- 高学年の人が分かりやすく教えてくれてうれしかった。
- 迷子にならないように、6年生が手をつないでくれてうれしかった。
- 6年生だけでなく、5年生も班をまとめてくれた。

【児童会によるアンケート結果】

- | | | |
|--------------------------|-----------|-----|
| ① 班で仲良く活動できた…………… | 369人／491人 | 75% |
| ② 班のみんなと協力することができた…………… | 448人／491人 | 91% |
| ③ みんなが笑顔で心があたたかくなった…………… | 416人／491人 | 84% |

今 後 の 展 開『キーワード 反省と改善』

- ・ 今年度取り組んできたたてわり班活動は、高学年のリーダー性の育成や、学年の壁を越えての良好な人間関係づくりの確立というねらいを達成するために非常に有効であったと感じる。
- ・ これまで継続して行ってきたたてわり班活動は、多くの児童の今年度の取り組みの反省を活かしながら来年度も取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画と見直し』

- ・ 行事の精選、またその内容の見直しをしていくことの必要性にせまられている中で、年間を通じてたてわり班を使った活動を行事の中に取り入れていくことの難しさを感じる。またリーダーとしての自信をもって取り組ませるためには、事前にリーダーとしての心構えや活動の流れなどが分かるようにオリエンテーションを行うことが欠かせない。少ない機会の中で大きな成果をあげるためには、たてわり班活動の取り組みに対する明確なビジョンを教員がもって児童への指導をすることが必要不可欠であると感じる。